

別紙様式 4

上益城郡教科等研究会（中学校美術部会） 令和元年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

みんなが楽しく『見つめ・感じ・つくりだす』授業づくり

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	午前 理論研	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6 / 3	32	甲佐中学校	8 / 20	広安西小学校	午後 実技研	10 / 31	嘉島西小学校	三城優子 教諭	1 / 23	木山中学校	島田弥咲 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

中学校美術部会では、12年前から小学校図画工作部会と連携して研究を進めている。今年度も昨年度の研究内容を引き継ぎUDの視点を取り入れた上記のテーマで小学校・中学校が協力して研究を深めてきた。

研究の主な内容は、テーマに基づいたUD授業づくりが中心となった。夏季休業日に実施した実技研修会では、午前中は研究授業へ向けての理論研修を小学校・中学校で分かれて行った。午後からは、教材メーカーの方をお呼びし工作、特に接着剤の種類や活用方法についての実技研修を行った。工作の実技研であったが、教材開発の視点や生徒への指導のポイントなどを指導していただき中学校の美術でも活用の展望の見える、大変充実した内容となった。

また、小学校の授業を中学校の先生方が、逆に中学校の授業を小学校の先生方が参観し、授業検討を行うことで、新鮮な意見交換や小・中学校それぞれの立場では気がつかなかった新しい視点での授業づくりが検討されることにとっても大きな意義を感じることができた。



(2) 成果と課題

○成果

- ・ 小・中連携で研究を進めてきて、今大会での取組により更に会員同士の結束が深まり、それぞれの部会でお互いが学びを深められる教科等研究会となった。
- ・ 若手とベテラン、小学校と中学校が混在する本部会においては授業検討や意見交換、教材開発まで新たな視点を毎年アップデートすることができる。研究授業では小中学校とも若い授業者の新しい視点と、ベテランの先生方の安定する視点が相互に良い効果を上げていると感じており、本部会の良いところを活かすことができた

○課題

- ・ 新学習指導要領の完全実施に向けて、今実施している授業評価の視点等を改めねばならない。新しく導入される「学力の3要素」については重なる部分や“主体的に取り組む態度”など学校間や指導者によって基準がまちまちになるものもある。来年度は、このことを踏ま

えて研究していく必要性を感じる。

4 実践事例

① 授業の概要

題材名 中学1年「空間を彩るペーパークイリング」 木山中学校 島田 弥咲講師

この題材では、16世紀頃にフランスやイタリアの修道女達が聖書製本の際にでる余った紙等を用いて宗教用具等を飾ったことが起源となるペーパークイリングの技法を現代風にアレンジしたものである。色紙を指や道具を使って巻くことで作られる形、それを組み合わせながら新たな形を生み出していく。現代ではメッセージカードの装飾やインテリア等に使われる技法で、素材に触れ合いながら発想をしたり、テーマに合う表現方法を模索し、話し合いながら発想を深めて、自分たちの学ぶ学校を飾る作品を制作する授業である。

② 学習指導案

第1学年2組 美術科学習指導案

日 時 令和2年1月23日(木) 第5校時

指導者 講師 島田 弥咲

1 題材名 「空間を彩るペーパークイリング」(開隆堂出版『美術1』材料を生かして)

2 題材について

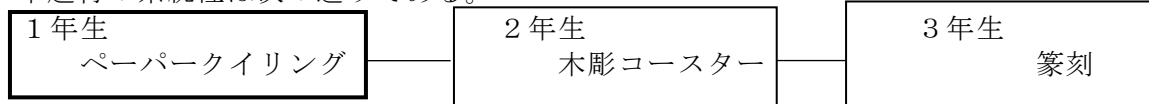
(1) 題材について、学習指導要領に基づいて記載する。

本題材は中学校学習指導要領のA表現(2)「ア 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと」及び「イ 材料や用具の特性などから制作の順序を考えながら、見通しをもって表すこと」、B鑑賞(1)「ア 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること」、共通事項(1)「イ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること」の指導項目に関連する。

紙という素材は、私たちの生活の中で最も身近で欠かせないものであり、筆記用、印刷用、包装用など、使い方は多岐に渡る。また、切る、折るなどの加工が簡単にできることから、日本でも建具や照明などに古くから活用されてきた。しかし、現代では既製品が溢れ、素材そのものから自分で創造し、ものを作り出すといった経験が少なくなりつつある。素材の可能性を感じ、ものを作り出す力とは必要なものではないだろうか。

本題材では、色画用紙を使ったペーパークイリング技法による作品を制作する。ペーパークイリングとは、細長い短冊状の紙を巻いてパーツを作り、パーツ同士を貼り合わせて図案を作る技法である。16世紀頃にフランスやイタリアの修道女たちが、聖書の製本で余った紙などを用いて宗教用具などを飾ったことが起源と言われており、紙を巻くだけの手軽さや完成度の高さ、見た目の美しさにより、現代でもメッセージカードの装飾やインテリアへ活用したりと人気の高い表現方法である。また、題材を通じて素材と触れ合って発想することや、表現するうちに自分の気持ちに合う色や形に気付き、苦手意識を持った生徒にも制作を楽しむことであったり、作品について語り合い、自分や友達の作品の良さに気付くことや、頑張ったという達成感を感じさせたい。

(2) 本題材の系統性は次の通りである。



(3) 生徒の実態は以下の通りである。

本学級は男子15名、女子14名の計29名である。2学期に行った授業の振り返りでは、美術の授業が好きだ、楽しいと感じている生徒が大半で、意欲的に活動する様子が日頃からもよく見られる。その理由として多かったのは、ものを描いたり作ったりすることが好きだからということと、中学校に入学し、小学校とはまた違った新しい表現

方法を学ぶことが楽しいからという意見があった。しかし、中学生になり、ものの見方が成長していくことで自分の作品に対して技術面に見劣りを感じてしまうことや、それが原因で鑑賞の時間に友達に作品を見られるのが嫌だと感じている生徒もいる。

3 研究テーマとのかかわり

【上益城郡教科等研究会全体テーマ】

「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」

【図工・美術部会テーマ】

「みんなで楽しく『見つめ・感じ・つくりだす』授業づくり」

- 手順や制作のポイントが ICT 機器や貼物等で視覚的に分かりやすく提示し、表現の手助けになるようにする。
- 制作途中の段階でも班で作品を見せ合い、友達の作品から発想を得たり、友達からアドバイスをもらったりできるような学び合いの環境をつくる。

4 題材の目標

- 材料や技法の特性を効果的に生かし、形や色彩を工夫して表現することができる。




5 本時の学習

(1) 目標

- ペーパーキリングの技法で表現することに関心を持ち、表現方法を工夫して自分のイメージした形を表現できる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	評価及び教師の手立て	備考
導入 ㉑	7分	1 授業の流れ・制作のポイントとめあてを確認する。【一斉】	○授業の流れ・制作のポイントとめあての確認とともに、自分がどの段階にいるかも確認し、この時間はここまで終わらせるようにするという見通しを持たせる。	参考作品 掲示物
めあて：パーツの組み合わせや色の組み合わせを工夫して自分の思いや考えを表現することができる				
展開 ㉒	20分 13分	2 制作をする。【個人】 3 アイディアスケッチをもとに、自分が考えたパーツの組み合わせや色合いを班で発表し合う。【班・一斉】	○机間指導をし、手順を理解しているか、ポイントをおさえているか確認しながら、制作を進めさせる。 ○友達アイディアスケッチや作品から、どのような表現方法が見られるか意識しながら発表を聞くようにさせる。 ○色・パーツの組み合わせ方の工夫や、なぜそのようにしたのか理由を述べさせる。 ○実物投影機を使い、2～3人にスクリーンで発表させる。	アイディアスケッチ 実物投
		【学び合い】 自分なりに考えた材料の使い方を発表し、共有する。		

			○友達の商品から学び取ったことや、友達からのアドバイスをメモさせる。	影機
			【評価】◇創造的な技能（発言・観察・作品） B基準 テーマやイメージをもとにして、材料の特性を生かし表現方法を工夫している。 〈B基準に達しない生徒への手だて〉 ○テーマに合った表現方法を見つけるための助言や実演をする。	
終末	5分	4 後片付けをする。		
⑤		まとめ：パーツの組み合わせ方や色の組み合わせを工夫することで自分なりの表現をすることができた		
	5分	5 本時の学習のまとめをする。【個人・一斉】	○本時の自己評価をさせる。 ○進度に遅れがある生徒には、次回はここまでやろうという目標を立てさせる。	ワークシート

③ 授業研究会の概要

○自評

- ・デザインと工芸の分野を取り扱う内容なので、教材をペーパーキリングに設定した。紙を扱ったのは身近な材料であるため。現在では素材から発想・想像してものを作る機会が減りつつあると感じている。だからこそ、教材の可能性を感じると共に今の子どもたちに必要な力となると思っている。また、もともと特別支援の子どもたちが楽しそうに活動する姿を見ていたので、図工美術部会のテーマに沿う内容となっている。

○質疑応答

○研究協議

※ 質疑応答と研究協議については、「授業研究会後の感想」とほぼ同じ内容。

<授業研究会後の感想>

- ・準備等がすごく丁寧にしてあり、生徒がストレス無く発想や構想を進めることができていた。
- ・キリングペーパーに多彩な色があり、そのことが表現の幅が広がることにつながったと思う。
- ・テーマをつかみきれずに作品づくりに入ってしまうことが小学校でもよくある。主題の設定はどの教材でも難しい部分だと思うが、どのようなテーマで、何の視点で等を授業でどのように設定するのが今後の部会のテーマになるのではないかな。

④ 助言・まとめ

- ・ペーパーキリングは簡単にでき、広がりがある教材。ただ、主題設定が「何でも良い」では広がりが無い。“～のために” “～を作ろう”といったことが発想の手立てとなる。また、対話的な活動だが、まず自分の中に発想がないと他者のマネになってしまう危険性がある。あくまでも発想を広げる手段として班活動やペア学習を活用していかなければならないし、そのためにはじっくり自分で考える「自分との対話の時間」を大切にしていかなければならない。そのための時間をしっかり確保して発想が広がったり深まったり、また広がったりとする授業づくりを目指して欲しい。

